

ACE 人権通信



人権教育・啓発通信：「エース」
発行：阿南中学校PTA家庭・人権教育部
2026年1月30日（金）
文責：人権教育主事 吉野 有佳

1月に入り、気持ちも新たにスタートが切れているでしょうか？昨年頑張れたことは今年も継続し、反省すべきところは改善していけるようにしてください。3年生はいよいよ進路選択に向けて大切な2か月となります。どのような選択をしても自分自身がしっかり納得できるようにしてください。最後まで一緒に頑張りましょう。

1・2年生は残り2か月でよりいっそうクラスの絆を深め、後期が終了したときに「いい学級だったなー」と思えるようにしてほしいです。そのために、一人一人が他者の思いを考え、行動し、よい雰囲気をつくっていけるようにしましょう。



◇今年度の人権部

4月から人権部の年間目標を「やさしさ 日本一」と掲げ、活動してきました。校内ではあいさつ運動や「人権のつどい」などの活動を行いました。また、校外では身元調査お断りワッペン運動やいじめ防止サミットにも参加させていただきました。人権部のメンバーが中心となり、さまざまな活動を通して、学級や学校に人権の大切さややさしさを広げてきました。今年度からスタートした新生人権部。3年生の思いを1・2年生が伝えていってほしいです。



私は人権部として活動してきて、多くの時間、人権について考えることができました。また、今年度はワッペン啓発運動や人権のサミットなどに参加することができ、とても充実した活動ができたと思います。このような経験をいかし、これから先も人権に関わることをしていきたいと思います。
（部長 幸田 彩乃さん）

一番印象に残っていることは色々な中学校と交流して人権について考えを深めたいじめ防止サミットです。色々な人たちと意見を言い合うことによって人権について、より理解を深めることができました。人権部に入って良かったです。
（副部長 宮繁 海楓さん）

人権部はこの1年間学校全体をよりよくするために様々な活動をしてきました。これらの経験は周りをみて行動する力や人を思いやる力にもなり、自分の成長にもつなげることができました。人権部全員で学校のためになるような活動ができてよかったし、楽しかったです。
（書記 平尾 ちとせさん）

◇「Living TogetherⅡ 平和学習」

1月9日（金）総合的な学習の時間に、来年度修学旅行で訪れる予定の沖縄県より 比嘉 共樹 様を講師にお招きし、日本における唯一の地上戦である『沖縄戦』について「共に学び考える」講義を実施いただきました。『沖縄戦』

の特徴である戦争動員の内容、ガマでの避難生活、ひめゆり学徒隊について等、複数の写真や年表、グラフから、当時の言葉にできないような悲惨な事柄を感じ、そこから生徒同士、教職員も共に考える、貴重な時間となりました。



私は、沖縄戦のひどさや怖さを知りました。小さくて幼い子どもがおぶったり、けがのてあてをさせられたりといったこともひどいと思いました。「ひもじかった。だから虫がわいていても食べた。」そんなことを聞いて、なんて戦争はおそろしいのだろうと思いました。もう二度と、このおそろしい「戦争」を起こしたくないです。そして、こうやって過ごしているのは、幸せなんじゃないのかと思いました。このことを家族にも伝えたいと思いました。絶対に忘れてはいけないと思いました。
（1年 竹井 萌杏奈さん）

何もしていない国民が戦争に巻き込まれているのがおかしいと思ったし、戦争に巻き込まれているのに、勘違いされ、虐殺されたりしているのもおかしいと思いました。そして、小さい子どもたちが戦争に行くのは、とても怖かったのだと感じました。国のために命をささげる、私だったらできないと思います。そして、命を大切にしなければいけないと思いました。今、戦争をしている国があるけれど、戦争は絶対にしてはいけないことだし、どうしてするのか分かりません。全員がしっかり、命や戦争のつらさを考えなければいけないなと思いました。
（1年 遠藤 心都さん）

今じゃ考えられないようなことを当時は当たり前のように行い、不思議に思ったり、怖くなったりした。人を国のための道具としかみていないのだなと思った。命が軽そうにみえた。実際に戦争を経験した人が減ってきているので、将来今回してくれた話を語り継いでいきたいなと思った。
（1年 池田 一翔さん）

不平等を押しつけられ亡くなってしまったりした人がいた大変なときがあったのだと分かりました。戦死してしまった人たちがいる中で食べ物があり、学校も行くことができる僕たちは幸せだなと思いました。戦争のない平和の大切さや命の大切さがよく分かりました。もしこのとき、自分なら絶対降伏しているけれど、それこそ許されない人権のない戦争は絶対に体験したくないです。沖縄戦についてよく分かったし、調べて知っていききたいなと思いました。
（1年 栗飯原 敬さん）

◇阿南市人権教育・啓発市民講座

12月23日（火）に「みんながつくる みんなの学校～地域に学校にすべての子どもに居場所を～」のテーマで、大阪市立大空小学校初代校長である木村泰子さんの講演がありました。参加して下さった家庭・人権教育部の方の感想を紹介します。

子どもが家庭で学校生活を話してくれない限り、私たち保護者は学校でどんなことが起きているのか知るすべがありません。講演の中で「親になぜ話さないのか」→「自分（子ども）がいじめられているのを知ったら悲しいだろう」と子どもながらに親の気持ちを考えられる優しい子が、なぜいじめられなければいけないのだろうと泣きそうになりました。木村先生の講演のような学校がたくさん増えると、とてもすばらしいことだと思います。しかし、実際問題、先生の過酷な勤務実態や地域近隣住民との付き合いの希薄さなどを考えるとかなり難しいとも思います。今はできることからコツコツとではありますが、子どもたちと会話をし、寄り添えたらなと感じた1時間でした。
（家庭・人権教育部）